

子孫遷于雍州

子孫遷于雍州

子

左下へ長く伸びやかに書き最終画の横画はもうすこし湾曲がいいですね。

孫

子へんが短くならないように。系は、少しずつ、十画で書いてみて下さい。

遷

この書き方、四画点をうち、右下へ長く書き、つくりは不鮮明ですがこの様に書いて下さい。

于

横画一本目は直線で、二本目は右上がりにならないように、湾曲した線に八分をしつかりつけ、最終画はしつかり筆を突き止めるように。

雍

へんの最終画も長く突き止める。隹の一画目も左下へ突き止める基本的な書き方になっている。横画上三本は直線、四本目は湾曲そして八分をつけましょう。

州

この文字も左下への線が三本、左への線を強く突き止めるようにして、バランス良く書きましょう。

商之業雖復質

商之業雖復質

商 「一」の横画をしっかり引いて下さい。二本の縦画は垂直に構えて下さい。

之 のびのび明るく書いて下さい。品格のある字ですので特に右はらいゆつたりと気持ちよく。

業 五画目の横画はしっかり引いて下さい。その後の横画に気をつけて下さい。

雖 偏の「虫」の点は省略しています。「佳」の左の横画の下部少し出し、横画の四本の接し方に気をつけて下さい。

復 「イ」の二画目の方向に気をつけ、旁の最終画をはらわないでとめて下さい。

質 左右に並ぶ「斤」で字幅を出して下さい。そして「貝」の位置に気をつけて下さい。私のは今一つです。

酒 黙 盡
壑 源 茶

酒 點 盡 壑 源 茶

酒

筆の柔軟性に対応すべく運筆ください。墨量もたっぷり。偏旁間の余白にも留意ください。

黙

上部の密度は「列火」の幅を広く見せる効果です。米芾の特有の前傾姿勢をとります。最終の点は少し下げて傾きの押さえにします。

盡

集王聖教序にみられるような素晴らしい造形です。五画目に当たる縦画は上部に突き出し、字間の余白の間を取ります。

壑

魅力的な字です。「酒」字の含墨に対し、渴筆にしました。流れるような運筆ですが緩急をつけリズム感を心がけてください。

源

米芾を含めた行書の作品に見られる運筆はほぼ蔵鋒で書かれています。これは筆の弾力を使っているからです。この字においても抑揚をつけて伸びやかさを表現ください。

茶

草冠。米芾独自の筆順で。縦↓横↓縦↓横の順に運びます。下部の余白がスラリとした造形を作っていることにご注目ください。

今回は、前半部分が線が太く、後半部分は線が細い所を臨書してみました。

物

三画目から四画目は大きく回して、かつ、太い線で描きます。太細の変化と傍の中の空間をみて下さい。

理

王扁からゆったりとした肉太の運筆で空間をとっています。

常

三画目と四画目を太く書き、下部は細く書いています。

然

三画目の横画は右上がりに書き、旁は少し傾けて。

貴

のびやかに運筆して下さい。

能

扁と旁の間の余白が大事です。

前半は字が大きくなりやすいので、苦労しました。みなさんは色々と工夫してみてください。

物 理 常 然 貴 能

物 理 常 然 貴 能